

授業科目名	事業構想研究	担当教員	西根英一	科目コード	??
配当年次	2年次	学期	通年(前期・後期)		
キャンパス	名古屋	単位数	4単位(2単位・2単位)		

講義の概要とねらい

概要)

各自の2年次事業構想テーマに沿って、0を1にするビジネスローンチのための事業の発想・着想・想像、事業の構想立案(KGIとなる大きな目標設定)、事業の構想計画(KPIとなる細かな要件定義)、次に1を100にするビジネスグロースのための事業分析(環境分析、市場分析、要因分析、戦略分析)と事業戦略(マーケティング・コミュニケーション)の“設計図”を策定しながら、事業価値の最大化、従来モデルとの差別化、持続社会への最適化を図り、社会実装のビジネスモデルを構築します。

ねらい)

テーマに対する事業構想を、“純度”をもって創発し、共創しながら“確度”ある事業構想計画書へとブラッシュアップしていきます。事業構想を確立し、事業実現に向けた事業計画書・企画提案書・政策提言書等として生かしていきます。

到達目標

2年次事業構想テーマに対する課題解決ないし未来創造を目途に、確度の高い事業構想の計画書を創り上げることを目標にします(=到達レベル)。さらに、社会実装に向けてビジネスが始動することを期待します(=期待レベル)。

キーワード

MPD、事業構想、課題解決、未来創造、社会実装、ビジネスローンチ、ビジネスグロース、マーケティングコミュニケーション、ビジネスモデル

授業の進め方と方法

ショートレクチャーとゼミナール形態にて進行し、報告・講読・討論と講評を繰り返していきます。「独」創をもとに「共」創意識を持つことによって、自助・互助・共助、さらにはときに公助との接点によって事業が芽生えていくよう指導します。

授業計画(前期)		課題
第1回	前期オリエンテーション…アプローチテーマを探索し、テーマが置かれている現状を構造化する	復習として、取り上げる課題を明確化しておく。
第2回	事業構想の外的刺激と内的動機	復習として、外的刺激と内的動機を整理しておく。(図式化)
第3回		
第4回	事業構想のテーマ確定	復習として、事業構想のテーマを整理しておく。(文書化)
第5回		
第6回	事業の発想・着想・想像…事業アイデアをクリエイティブ発想で拡散して、ロジカル思考で収束する	復習として、事業アイデアの開発の経過を整理しておく。(図式化)
第7回		
第8回	事業の構想立案と事業の構想計画…KGIからバックキャストिंगして、KPIを要件定義する	復習として、事業の構想立案、事業の構想計画を仕上げておく。(文書化と図式化)
第9回		
第10回	精緻化のための事業分析…PEST分析(環境分析) + 3C分析(市場分析) から、SWOT分析(要因分析)→クロスSWOT(戦略分析)へ	復習として、事業分析を仕上げておく。(文書化と図式化) ※この復習には、かなりの時間を要することが想定されま
第11回		
第12回	実装化を想定したビジネスモデル…事業と市場を真ん中に、縦軸	復習として、ビジネスモデルを仕上げて

第13回	にシーズとニーズとゴール、横軸に人脈と金脈を整理する	おく。(図式化)
第14回	事業構想テーマに対する中間成果(中間発表会に向けたゼミ内発表) [一人当たり発表(20分)と討論・講評(10分)を想定]	事前に、発表の準備を要す。
第15回		
授業計画(後期)		課題
第1回	後期オリエンテーション…アプローチテーマに関して、夏休み期間中に収集したこと見聞きしたことの報告(特にフィールドワーク用件)	復習として、課題を再調整し、商材とXaaSを明確化しておく。
第2回	戦略化のための事業プラン①…ブランディング(商材開発)とイシューイング(話題啓発)	復習として、戦略化事業プラン(ブランディングとイシューイング)を仕上げておく。(文書化と図式化)
第3回		
第4回	戦略化のための事業プラン②…マーケティング(市場開拓)とターゲットティング(顧客獲得)	復習として、戦略化事業プラン(マーケティングとターゲットティング)を仕上げておく。(文書化と図式化)
第5回		
第6回	収益化のための事業プラン…分母戦略と分子戦略の事業展開プラン	復習として、収益化事業プランを仕上げておく。(文書化と図式化)
第7回		
第8回	上市化に向けた事業プラン…広告プロモーションプランと戦略PRプラン	復習として、上市化事業プランを仕上げておく。(文書化と図式化)
第9回		
第10回	事業構想テーマに関する事業構想計画書のコンセプト(概念)、コンテンツ(内容)、コンテキスト(文脈)の整合性の確認と論点整理①	事業構想計画書の執筆を速やかに進めること。
第11回		
第12回	事業構想テーマに関する事業構想計画書の最終審査に向けたアジェンダの確認と論点整理②	事業構想計画書の執筆を細やかに進めること。
第13回		
第14回	事業構想テーマに対する最終成果(最終審査会に向けたゼミ内発表) [一人当たり発表(20分)と討論・講評(10分)を想定]	事前に、発表の準備を要す。
第15回		
教科書		
西根英一「事業構想に求められるビジネスローンチとビジネスグロースの2ステップ」, 事業構想研究3: 21-28, 2020. (https://sentankyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=34&item_no=1&page_id=13&block_id=21)		
参考書、講義資料等		
進捗に沿った資料を毎回提示します。		
成績評価の基準及び方法		
前期15回・後期15回を通じた事業構想テーマへの取り組みを評価の8割に設定します(「事業構想の中間計画書」「事業構想の最終計画書」作成は修了条件となります)。残り2割は、授業内の“共創”への参画度を平常点とします。		
連絡先(メール・電話番号)		

西根英一 : e.nishine@mpd.ac.jp

オフィスアワー

講義当日は名古屋校、その他の時間帯はメール等で対応します。

その他

- ・環境分析においては、情報収集のための論文検索ないし専門家へのヒアリング等が課せられます。市場分析においては、ニーズ探索のためのフィールドワークないしグループインタビュー等が課せられます。
- ・前期末の中間発表会、後期末の最終審査会の発表準備にまとまった時間を要します。